

わたしの光の詩  
ピース・ハウス・ふれんず

September 2008

Issue Number 14



ごあいさつ	3
ピースハウスの役割	4
ありがとう15年	5
ホスピス教育研究所の活動	10
ホスピスサポート活動	12
ピースハウス家族の会	12
入退院状況	13
ホスピスケアを受けるために	14
施設内容とスタッフ	15
収支報告	15



シンボルツリー：花水木

# ごあいさつ

財団法人ライフ・プランニング・センターが設立されたのは1973年4月でしたが、そのとき「財団設立の目指すもの」として掲げたのは、「個人に健康の主体性を自覚させ、その生涯を通しての心身の健康管理を、快適な生活環境・快適な自然環境・快適な社会環境・快適な精神環境との関連において考え、人々の社会生活と家庭生活を指導し、適正な医療をタイミングよく提供すること」ということでした。それ以来、本財団はこの趣旨に沿って、一般市民への健康教育、日本の医療の変革への提言、病気の早期発見と早期治療など、さまざまな取り組みを展開してきました。その中からすでに「血圧の自己測定」「生活習慣病」など、日本の医療の考え方に影響を及ぼしてきたものも少なくありません。そのひとつに、1993年9月に神奈川県中井町に設立した独立型ホスピスピースハウス病院がありますが、この施設も本年秋には開設15年を迎えることとなります。

私がホスピスをつくりたいと思ったのは、1967年にイギリスのロンドン郊外にシシリー・ソングラス先生によってつくられたセント・クリストファーズ・ホスピスの存在を知ってからです。私はそれまでも長い臨床医としての仕事を通して、人間の最期こそがもっとも手厚い看取りによって、心おきなく家族や親しい人たちとお別れすること、そういう場面を設けることではないかと考えてきましたが、ソングラス先生が私に、「この世を去ろうとする患者さんにとっていちばん大事なことは“be with the patient”ですよ」と言われたのを聞いて、ぜひとも日本にもそれが実現できる施設をつくりたいと思ったのです。

そして、米国はじめ各国のホスピスを視察し、オーストラリアのコテージホスピスに理想の姿を見出しました。念願のピースハウス病院が誕生したのは、先にも述べた通り1993年9月でしたが、その準備はすでに1985年4月から着手されています。「ホスピス準備室」がつくられ、故・古井喜實氏（元厚生大臣、同法務大臣）に「ピースハウス後援会代表者会」の会長にご就任いただき募金活動が大々的に展開されました。その結果、二千余名の方々から寄せられた2億5,989万6,630円と、加えて日本財団と神奈川県の多大なご協力、そして何よりも中井町の富士山の見える絶好の療養環境に2,000坪もの土地を提供してくださった故・大森正男氏（元湘南観光開発株式会社社長）のご好意によって実現したものです。

ピースハウス病院は、1985年から開設までの8年間の歴史を礎にして、本年、設立15年を迎えることができたということを忘れてはなりません。

幸い、昨年3月には訪問看護ステーションをピースハウス病院内に移転させることができましたが、これによりいっそう地域に密着した終末期の医療を提供できることとなりました。また、併設のホスピス教育研究所は、広く全国のホスピス・緩和ケアに関係する方々に門戸を開放し、国際ワークショップの開催や数々の研究会、研修会などを開催しています。ピースハウスの存在は、財団設立の当初の目標に沿うものとして活動を展開しております。

このようにピースハウスは、開設以前から今に至るまで大勢のボランティアの力と、地元の方々の大きな善意によって支えられてきました。

「人間としての真の幸せとは何か」を追求する時代にあって、みなさまのご要望に応えられるよう、ピースハウスの関係者一同、これからも真摯に業務に取り組んでいきたいと思っております。

財団法人ライフ・プランニング・センター  
理事長 日野原 重明

# ピースハウスの役割

## 理念と基本方針

ピースハウス病院

### 理念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時を共にする人はそれぞれの生き方を尊重する。

### 基本方針

1. 患者が、痛みなどの心身の不快な症状の緩和を得て、穏やかに生きてゆくことができるように全人的ホスピスケアを提供する。
2. 愛する人を失う悲しみやその他の心身の反応は自然なことと考えて、かかわりを持ち始めたときから死別の後にいたるまで患者の家族を支援する。
3. 多職種の職員とボランティアがチームを構成し、互いに協力してケアを提供する。
4. 日本の実状に即したホスピスのモデルとして、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

2008年4月1日改訂

今年は、15周年の節目を迎えるとともに、病院機能評価更新の年でもあります。また、来春からの診療報酬電子請求化を機に、電子カルテ、オーダリングなどIT化を進めます。これらはどれも、ケアの見直し、改善の継続につながるものと考えています。

ピースハウスでは日常性の維持をケアの大切な目標と考え、患者・家族を支え、良い環境を提供し、家庭的雰囲気を醸しながら、苦痛を緩和し、思いやりを届ける努力を続けてきました。今後も、入院、外来、在宅、そしてデイケアでケアを提供していくとともに、地域緩和ケアネットワークの一環として活動します。

全国の緩和ケア病棟は200施設4000床に届こうとしており、がん診療連携拠点病院をはじめ多くの病院での緩和ケア診療チームの活動に期待が寄せられています。また、在宅療養についても、促進措置がとられています。2007年から施行された「がん対策基本法」で緩和ケア啓発普及にさらに拍車がかけられましたが、良質の緩和ケアを提供していくには、緩和ケアの基準や、質を保証するための評価指針を順次策定し、専門機関や専門職の認定の仕組みを構築していかなければなりません。

ホスピス教育研究所で日本ホスピス緩和ケア協会の事務局を引き続き担当してこれらの活動に関わっていくとともに、アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワークや世界規模での運動にも関与します。

院長 西立野 研二

# ありがとう 15年

ピースハウスは開院15周年を迎えました。日本初の独立型ホスピスとして、多くの方々に支えられながら歩んできました。

最初の患者さんが入院されたのは1993年10月、以来多くの患者さんにご家族がここで時を過ごされました。



人生経験豊かな患者さんのことばは、時として親のことばより重い

ここで時を共にした患者さんとそのご家族。いまあらためてお一人おひとりのお顔を思い私たちをここまで育ててくださったすべての方々に対する感謝の念でいっぱいです。

患者さんとボランティア  
出会いは宝物、深い思い  
が交錯する







豊かな自然  
幼なかつたころを思い出  
させてくれる

満開の桜、夏の太陽に輝く緑の芝生、心に滲みる紅葉、すべての音が消える雪。ホール  
の大きな窓から見える富士。鹿、野うさぎ、雉などの生き物たち。患者さんもご家族も、  
私たちがもどれだけ癒されたことでしょう。

庭に出て、しばしの語らい  
陽光は眩しく、わたる風は  
心地よい





事例検討会  
多職種で話し合う  
いろいろな視点からの意見  
が交わされる

からだ  
身体の痛み、心のつらさ。患者さんの苦しみを前にして時には立ちすくむこともある。  
そんなとき一緒に働く仲間がいる。チームメンバーの支えは何よりも心強い。

朝10時、看護師からの申し送り  
お一人おひとりの患者さんにつ  
いて説明する  
真剣にメモを取るボランティア  
チャプレン、音楽療法士、ハウ  
スキーパー、事務スタッフ





今日は近くの歯医者さんがピースハウスに往診  
食事を楽しむことがどんなに大事か

病気が進行しても、患者さんの QOL（生命・生活の質）が保たれるように、地域の医療福祉サービスの協力を得てケアの幅が広がる。

春には町のお神輿  
夏は地元の笹に七夕飾り  
冬には教会から聖歌隊の  
クリスマスキャロル  
地元の方々からの季節の  
贈り物が届きます







開院以来、毎年開かれている  
国際ワークショップ  
海外からの講師は30人を越え  
参加者は全国から集う  
ケアのネットワークが広がります

日本初の独立型ホスピスとして開院したピースハウス。日本のホスピスのモデルとしてよりよいケアの提供とともに、ケアにたずさわる人々の教育を進めてきました。私たちが目指す理想のホスピスケアを支えてくださる多くの個人や団体（組織）からの経済的支援に、あらためて感謝申し上げます。



いまあらためて15年の活動を振り返る時、ピースハウスの理念である「ここで時を共にする人はそれぞれの生きかたを尊重する」に思い至ります。感謝とともにこの理念を大切にしながら、これからも歩いていきます。

# 2007年度ホスピス教育研究所の活動

ピースハウスの2階に位置するホスピス教育研究所は、神奈川県をはじめ全国に向けてのホスピス緩和ケアに関する教育啓蒙活動、院内スタッフ・ボランティアの教育、さらに、国内外の他施設・団体とのネットワーク作りなどを主な業務としています。

また、「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として、年次大会・理事会・総会・専門委員会の開催、全国の緩和ケアの現状調査、講演会の開催、機関紙の発行などを並行して行っています。

ホスピス教育研究所所長 松島 たつ子

## 1. ターミナルケア人材育成講座の開催

講座名	期日	日数	講師(所属)	参加人数
ホスピス緩和ケア講座	2007年10月～11月	2	西立野研二(ピースハウス病院院長)他7名	延88
ホスピスセミナー がん患者と家族が直面する苦悩への支援	2007年6月	1	梅田恵(オフィス梅田代表 がん看護専門看護師)	91
ホスピスセミナー 愛する人を亡くすとき - 家族・遺族の心理とグリーフケア -	2007年10月	1	坂口幸弘(関西福祉科学大学 健康福祉学部准教授)	55
ホスピスセミナー スピリチュアル・ケア - 終末期患者の危機的・実存的問いと 援助者のあり方 -	2007年12月	1	賀来周一(キリスト教カウ セリングセンター相談室長)	89
ホスピスワークショップ 終末期における臨床倫理	2008年2月	1	清水哲郎(東京大学大学院人 文社会系研究科次世代人文学 開発センター 教授)	83
ボランティア講座 春期講座 秋期講座	2007年5月～7月 2007年10月～12月	8	志村靖雄(ピースハウス病院 ボランティアコーディネーター) 他7名	21
ボランティアアドバンス講座	2007年6月～2008年3月	5	沼野尚美(六甲病院緩和ケア 病棟チャプレン・カウンセラー) 他8名	延215
ホスピス公開セミナー	2007年4月～2008年2月	17	瀬戸ひとみ(ピースハウス病 院がん性疼痛看護認定看護師)	延300

## 2. 第15回ホスピス国際ワークショップの開催

開催日：2008年2月2日～3日

開催場所：ホスピス教育研究所

テーマ：ホスピス緩和ケア 東洋と西洋の対話  
- スピリチュアリティと倫理に焦点をあ  
てて -

講師：Dr. Rosalie Jean Shaw  
Executive Director of Asia Pacific  
Hospice Palliative Care Network  
Dr. Verena Tschudin  
Director of the International Centre  
for Nursing Ethics, London, England

参加人数：112名



ショー先生(左), チューディン先生(右)

## 3. ホスピス講演会の開催

開催日：2007年9月1日

開催場所：平塚市民センター

テーマ：自分らしく生きる

講演：日野原重明(財)ライフプランニングセ  
ンター理事長, 他3名

参加：1,375名

#### 4. 研修生の受け入れ

- 1) 医療職のためのホスピス研修 (計3名)  
秋本病院 医師 (1), 亀田ファミリークリニック 館山 医師 (1), 遠藤医院 医師 (1)
- 2) ホスピスナース養成研修 (計49名)  
日本看護協会「緩和ケアナース養成研修」(12名)  
日本看護協会「認定看護師研修」(2名)  
神奈川県看護協会ホスピスケア認定看護師教育課程研修生・教員 (35名)
- 3) 医学生のためのホスピス研修 (10名)  
東海大学医学部 (10名)
- 4) 看護学生のためのホスピス研修 (2名)  
慶應義塾大学看護医療学部 (2名)
- 5) ホスピス体験実習 (計13名)  
神奈川県立曽屋高等学校 (4名), 神奈川県立七里ヶ浜高等学校 (4名), 日本社会事業大学 (1名), ルーテル学院大学 (3名), 滋賀医科大学 (1名)

#### 5. ピースハウス見学者への対応 53件 343名

##### 主な見学団体

愛知国際病院, 金沢大学医学部附属病院, 横浜甞生病院, 救世軍清瀬病院, 鶴巻温泉病院, あそかピハークリニック, 鎌倉常磐クリニック, 聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科, 慶應義塾大学文学部, 東洋英和女学院, 聖心女子大学, 昭和音楽大学音楽療法コース, 湘南学園高校, 中井町井ノ口小学校 PTA, ホスピスボランティア日韓交換プログラム, 日本財団, 日本福音ルーテル武蔵野教会, 田園調布ルーテル教会, 日蓮宗神奈川第三部社会教化事業協会, 中外製薬がん領域学術推進部, 医療コーディネーション・ジャパン, 博報堂総合研究所, 三井不動産ケアデザイン室, 他

#### 6. 事例検討会

期 間: 2007年4月~2008年3月 (10回)

##### 主なテーマ

- ・患者の意思の尊重と代理意思決定
- ・摂食嚥下障害の支援を考える
- ・鎮静をとりまく課題
  - あらためてなぜ鎮静をするのか -
- ・死についてももう一度考える
- ・子供達の面会を拒む患者とその家族への関わり
  - 青年期に父親を失う兄弟へのケアを体験して -

- ・「...にもかかわらず生きる」ことを支えるケア
  - 骨折後に抑うつ状態となり, 自ら鎮静を希望した事例から考える - 延参加人数: 191名

#### 7. ホスピスケア研究会

期 間: 2007年4月~2008年2月 (5回)

##### 主なテーマ

- ・「みる」ということ
  - ・生老病死
  - ・喪失と悲嘆
  - ・俳句と死生観
  - ・宗教・音楽・人生
- 延参加人数: 49名

#### 8. Study Day 症状マネジメントを学ぶ

期 間: 2007年5月~2008年3月 (5回)

##### 主なテーマ

- ・疼痛マネジメント
    - オピオイドの使い方 -
  - ・せん妄
  - ・終末期患者の呼吸困難マネジメントとケア
  - ・終末期がん患者に対する摂食・嚥下, 口腔ケア
  - ・スピリチュアリティって何だろう?
- 延参加人数: 77名

#### 9. 地域緩和ケア研究会

期 間: 2007年4月~2008年1月 (5回)

##### 主なテーマ

- ・在宅ケアと地域緩和ケアネットワーク
  - ・苦痛緩和における鎮静
  - ・病気の親をもつ子供への告知・病状説明について
  - ・終末期せん妄患者の症状緩和
  - ・緩和ケアにおける薬剤師の役割
  - ・地域緩和ケアネットワーク
    - 今, 何が求められ, 何ができるのか -
- 延参加人数: 296名

#### 10. 研究所会員制度

(図書貸出, 文献検索サービスなど)

会員数 30名

(医師9名, 看護師9名, ソーシャルワーカー2名, 音楽療法士1名, 薬剤師1名, 栄養士1名, 理学療法士1名, 生活指導員1名, ボランティア1名 他4名)

#### 11. 機関誌発行

ピースハウス活動報告 (ふれんず Issue No.13)

5,000部

# ホスピスサポート活動

2007年度も外部の沢山の団体や個人の方々から多くのご支援をいただきました。その活動をご紹介します。

## ・府中はなみずき

クッション、ベッドカバーなどの手作り介護用品の提供、バザーで作った資金で備品や美容室の運営をサポートして下さる開院以来の地域有志による支援団体です。

## ・ホスピスサポートチーム

自らの寄付金その他、コンサート、講演会、ミニバザー、書籍販売などの収益金でシャトルバスの購入から運行までピースハウスへの足を支えて下さっている開院以来の財団ボランティアによる支援団体です。

## ・姫由美子と素敵な仲間たち

例年のように5月にテンドーラブコンサート（ピースハウスチャリティコンサート）とバザーを開催、多額のご寄付をいただきました。

## ・その他の団体

N響チェロ奏者徳永健一郎さんを偲ぶ第11回夢コンサート、B・Bサンタクロース事務局による日本プロ野球選手会の第20回チャリティゴルフなどからご寄付をいただきました。

## ・ピースハウス友の会

開院と同時に設けられた後援会。ピースハウスのために約300名の方から継続的にご寄付をいただいています。一時的な運営のための寄付を合わせると年間2,000万円にもなります。

## ・ピースハウスボランティア支援寄付

献金箱にいただいた2007年度の支援金は約65万円、そのお陰で患者さんやご家族に喜んでいただけるボランティア活動を継続することが出来ました。

## ・ティータムコンサート

ボランティア演奏家によるコンサートは弦楽四重奏、ハープ、ピアノ、演歌、コーラスなど5回にわたって行われました。

## ・その他の個人

毎年クリスマスに縫いぐるみやお菓子をプレゼントして下さる方、フレンズショップに恒常的に手作り品をご寄付下さる方、介護用古布を送って下さる方、数え切れないほどの無名の善意の方々のご支援をいただきながら、今年9月ピースハウスは開院15周年を迎えます。

ピースハウスボランティアコーディネーター  
志村 靖雄

# ピースハウス 家族の会

「先日、家族の会に、娘と一緒に初めて参加しました。若干の戸惑いもあり、途中からの参加となり大変失礼しました。とても初対面の人達とは思えないお気遣いのなか、亡き人との最期の時を過ごした場所で、穏やかな気持ちで、あの時を振り返ることが出来ました」（ぶらっとスポット参加者からの便り）

家族の会は、ピースハウスでケアを受け、旅立っていかれた方々の家族の集まりとして、1997年に発足しました。以来、21回の定期懇親会、79回の小さな集まり“ぶらっとスポット”，そして、会員からの投稿に支えられて41号を数えた会報『悠友』。これらを軸に、時折届く会員からのお便りに力づけられながら家族の会は10歳になりました。この間、入会された方は384名、退会された方も多く、4月末現在の会員数は205名です。

「人は人によってしか元氣になれない」と、副会長の佐藤さん。愛する人を失った、その同じ思いを分かり合える。そんな仲間同士の語り合いに、心なごませ、癒されて、元氣になって退会された方。一

方、「何年経ってもピースハウスに行く勇気が出ない」という方もおられ、水族館やフラワーパークなど、野外でのぶらっとスポット、また、ホテルでの懇親会開催なども行っています。それぞれの歩みに合わせて、家族の会が何か役割を果たせるならば幸いです。

ピースハウス家族の会 会長 増淵 志計男





# 入退院状況 (2007年4月～2008年3月)

ピースハウス病院は、2008年秋に開設15周年を迎える独立型ホスピスで、主として終末期のがん患者に症状緩和、QOL向上・維持に役立つケアを提供している。神奈川県西部の丘陵地帯の一角、西に富士、北に丹沢を望む高台にあり、庭には四季の花々が咲き、樹木が木陰を提供する。約6,000坪の敷地に、大きな家を思わせる約1,000坪の建物がある。「やすらぎの家」として、全人的ホスピスケアの提供、家族の支援、チームワーク、およびモデル施設としての役割を果たすことを目指している。併設のホスピス教育研究所でホスピスケアについての啓発・普及や研究、教育などを行っている。

## 入退院状況 (2007年4月～2008年3月)

- (1) 入院患者数 237名 延べ239名
- (2) 男女別 男137名 女100名
- (3) 平均年齢 71.0歳
- (4) 平均在院日数 27.4日
- (5) 原発疾患

肺癌	54	胃癌	30	結腸癌	18
膵癌	18	肝癌	12	食道癌	12
乳癌	12	腎癌	9	胆道癌	8
卵巣癌	8	子宮癌	8	直腸癌	7
咽頭癌	7	前立腺癌	7	膀胱癌	6
脳腫瘍	5	口腔癌(舌、歯肉など)	4	胆管癌	3
原発不明	3	他	6		

## (6) 患者住所分布

神奈川県	214	東京都	18	福島県	1
栃木県	1	埼玉県	1	静岡県	1
長野県	1				

## (7) 神奈川県の内訳

平塚市	37	小田原市	25	秦野市	23
横浜市	21	中郡	20	相模原市	12
伊勢原市	12	厚木市	10	足柄上郡	10
川崎市	6	藤沢市	6	茅ヶ崎市	6
足柄下郡	6	大和市	4	愛甲郡	4
海老名市	3	鎌倉市	2	横須賀市	2
座間市	2	逗子市	1	綾瀬市	1
南足柄市	1				

## (8) 紹介病院一覧

東海大学医学部付属病院	47
小田原市立病院	15
平塚共済病院	15
東海大学大磯病院	12
平塚市民病院	10
北里大学東病院	10
国立がんセンター	8
秦野赤十字病院	7
伊勢原協同病院	6
国立療養所神奈川病院	5
東名厚木病院	4
藤沢市民病院	4
聖マリアンナ医科大学病院	3
海老名総合病院	3
山近記念総合病院	3

以下 各2件

神奈川県立がんセンター・東京女子医大・藤沢湘南台病院・済生会平塚病院・西嶋医院・丹羽病院・横浜新緑総合病院・いのうえクリニック・聖隷横浜病院・小澤病院・横浜市立大学医学部付属病院・聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院・横浜労災病院・厚木市立病院 (順不同)

その他 57施設 各1件

# ホスピスケアを受けるために

ピースハウスは主に治癒が困難ながんの患者さんとご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアだけでなく、外来診療、また、訪問看護ステーション中井や各地域の訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアも行っています。

ホスピス緩和ケアについてご理解いただくことと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させていただくため、患者さんやご家族と面談の機会を設けております。面談時にご用意いただく医療情報がありますので、入院・外来診療・訪問診療をご希望の方は、まず電話でお問い合わせ下さい。

## 相談の窓口

ピースハウスでは、下記の相談についての窓口を設けています。

1. 当院への入院に関する相談
2. 当院での外来や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談
4. ホスピスケアを受けながらの生活に関する相談

これらの相談窓口は、ソーシャルワーカーや看護師が担当しております。相談には予約が必要ですので、電話でご連絡ください。

電話 0465 - 81 - 8900 (代)



## 入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談・外来予約
2. ホスピス相談・ホスピス外来
3. ホスピスケア判定会議  
(ホスピススタッフがケアの開始に必要な事柄について検討)
4. ホスピスケアの開始  
(外来・在宅ケア・入院ケアの予約)

なお、ピースハウスでは病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治癒が困難である病状であることを認識し、苦痛の緩和を目的とすることを望んでおられるのであれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

## 入院費用

医療費によっては健康保険が適用され、患者さんの負担額によっては、その一部が高額医療費制度により還付されます(申請が必要です)。

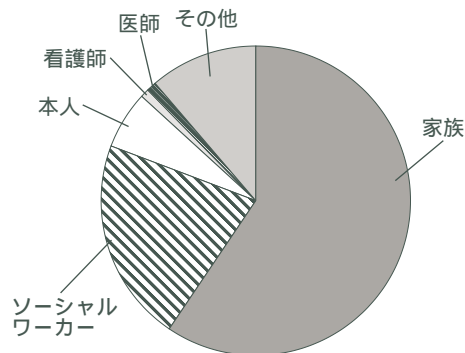
当院に関する情報はインターネット <http://www.peacehouse.jp/>でもご覧いただけます。

## 2007年度の相談状況

相談件数：876件

内 訳

家 族：	522件	看 護 師：	8件
ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー：	187件	医 師：	9件
本 人：	53件	そ の 他：	97件



## 施設内容とスタッフ

### 病床数・形態

承認緩和ケア病床（個室13室，4床室2室），  
院外独立型（2階建，1階病棟，2階ホスピ  
ス教育研究所）

### スタッフ

専任医師3名，看護師24名，看護助手4名，  
病棟事務1名，薬剤師2名，MSW1名，チャ  
プレン1名，音楽療法師1名，管理栄養士2  
名，キッチンスタッフ8名，事務員4名，ハ  
ウスキーパー6名，ボランティアコーディネ  
ーター1名，ボランティア99名，運転スタッフ  
3名，教育研究所4名

### 看護体制

プライマリーナーシング（受持ち制）

### 総面積

敷地面積：5,790㎡ 建築面積：1,989㎡  
延床面積：3,422㎡ 個室面積：20～23㎡

差額ベッド代 個室以外は無料，個室1日  
18,900円，24,150円（税込み）

### 交通

小田急線秦野駅・JR東海道線二宮駅よりい  
ずれも車で15分  
2駅とホスピス連絡のための定時のシャトル  
バス有り

## 2007年度収支報告

2007年度の延入院患者数は，6,579人，1日当  
り平均在院患者数は，18.0人，平均ベッド稼働率は  
81.7%でした。

経常収入	352,294 千円
経常支出	354,525
当期経常収支差額	2,231
寄附金・会費収入	20,478
当期収支差額	18,247 千円

## 寄付報告

運営のためのご寄付	137件	16,738 千円
友の会会費	218件	3,740 千円
か と れ あ 会 員	4件	400 千円
は な み ず き 会 員	16件	800 千円
ば ら 会 員	28件	840 千円
さ く ら 会 員	170件	1,700 千円
合 計	355件	20,478 千円

## ピースハウスをご支援下さい

2008年9月にピースハウス病院は，開設満15周年を迎えます。

これまでの皆様方からのご寄附，募金，会費に対し深く感謝すると共に今後のご支援もなにとぞよろしく  
お願い申し上げます。

### ご支援いただくには次の方法があります

#### 1) 運営のための寄付

随時受け付けています。

#### 2) ピースハウス友の会

特定の金額を年会費としてご寄付くださる方の会です  
（年によってどの会員でも選べます）。

かとれあ会員 10万円以上 はなみずき会員 5万円  
ばら会員 3万円 さくら会員 1万円

#### [振込先]

郵便振替口座 00130 - 6 - 407939  
加入者名 財ライフ・プランニングセンター  
ピース・ハウス募金口

備考欄に「運営のための寄付」か「 会員」かご記入下さい。

#### [お問い合わせ先]

ピースハウス / 寄付担当（志村）

TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520



財団法人  
ライフ・プランニング・センター  
ピースハウスホスピス

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000 - 1  
TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520  
ホームページ <http://www.peacehouse.jp/>